

新野東の宝篋印塔



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	にいのひがしのほうきょういんとう
所在地	津山市新野東
指定年月日	昭和51年3月27日
解説	<p>観音堂と呼ばれる土地から、昭和8年(1933)に掘り出して建て直された。ともに花崗岩製で、左塔の総高125cm、右塔122cm。それぞれに刻銘が残っており、南北朝時代初期の康永2年(1343)に、道雲・性阿弥夫妻の供養塔として一対で造立されたと考えられる。左右両塔とも基礎・塔身・笠・相輪からなり、基礎正面の格狭間に蓮華を肉彫し、塔身に梵字を薬研彫に刻んで、笠の四隅はほぼ直立する。基礎の開蓮華装飾は、当時近江地方に流行したものが播磨を経て美作に入った例として注目されている。</p>
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	